

名医はこの人

ブラックスジャックを 探せ



大病院志向の強い日本人。ちよつとした力でも大病院にかかりたがる人が少なくない中、自ら「町医者」という呼び方にこだわり、地域医療の「根っこ」の部分の重要性を訴え続ける医師が兵庫県尼崎市に

いる。
長尾クリニック院長の長尾和宏医師は、「0歳から100歳まで、老若男女誰でも診ます」を合言葉に診療を続ける開業医だ。その言葉通り、耳鼻科や眼科、婦人科、重度の精神科疾患などを除くプライマリケア全般に対応している。

「患者が大病院に憧れるのと同じように、若い医師の多くが専門医に憧れる。確かに高度に専門特化された技術や知識を持つ医師は必要だが、その対極

長尾クリニック院長長尾和宏さん(54)



に位置する総合医の存在はもつと重視されるべき。『何となく調子が悪い...』といった「よく

ある症状”から病気を探り出し、確定診断につなげていく立場の医師がいなければ、専門性の高い医師に行きつくこともできません」

そんな「医療の窓口」としての役割を担うべく、現在のクリニックを開設したのは阪神大震災の年。以来17年。その存在

は、地域にとってなくてはならないものとなっている。

「クリニックから一歩外に出ると知り合いだらけ。信号待ちやコンビニのレジに並んでいても、顔なじみの患者さんに声をかけられ、相談を受ける。そのたびに即席の「ミニ健康講座」ですよ(笑)」

そんな長尾医師の守備範囲の広さは、外来診療だけにとどまらない。合間を縫って在宅医療や往診にも応じ、貴重な休憩時間にはブログや著書の原稿執筆に取りかかる。1日が24時間では足りない忙しさだ。

それでも笑顔は絶やさない。地域が、住民が求める医療を提供できる医師としての喜びが、自然に笑顔を作り出す。今日も尼崎の町を「日本一の町医者」が走り回る。

(長田昭二)

「町医者」という呼び方に こだわり

ながお・かずひろ

1958年生まれ。東京医科大学を卒業後、大阪大学第二内科入局。95年尼崎市内に「長尾クリニック」を開設し院長。医学博士。労働衛生コンサルタント。趣味はゴルフ。